

2025 年度 自己点検・評価報告

同志社データサイエンス・AI 教育プログラム (DDASH) リテラシーレベル・応用基礎レベル

同志社データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会

1. 2025 年度プログラム履修状況・修了状況

リテラシーレベルは 2022 年度から、応用基礎レベルは 2023 年度から開始している。両レベルともに、構成科目全てが全学部の学生が履修可能な「全学共通教養教育科目」により構成される。

各プログラムの必修科目は全てオンデマンド型のオンライン授業としている。また、より多くの学生の履修促進のためにも、プログラム履修のための個別申請は設けていない。

リテラシーレベルでは必修科目「データサイエンス概論」の科目登録、応用基礎レベルでは必修科目「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「AI 基礎」のいずれかの科目登録をもって、プログラムに申請したものとみなし、システム上で登録・管理している。

この仕組みにより、学生ごとのプログラムの履修・単位修得状況の即時かつ正確な把握が可能であり、更に各プログラムにおける必修科目については、全て LMS を利用して履修生毎の受講状況や課題の提出状況を把握することができ、学生の授業進捗へのフォロー等の支援にも活用可能となっている。

なお、全学共通教養教育センターにおいては、学期毎に履修者数や単位修得状況を調査分析し、随時プログラム運営の改善等に活かしている。

リテラシーレベル (DDASH-L)

学部	入学 定員	収容 定員	(DDASH-L)										履修者 数合計	履修率	必要単位 修得者数 (合計)	必要単位 修得率
			2025		2024		2023		2022							
			履修者数	必要単位 修得者数	履修者数	必要単位 修得者数	履修者数	必要単位 修得者数	履修者数	必要単位 修得者数						
神学部	63	252	26	1	15	0	10	1	6	0	57	22.62%	2	3.51%		
文学部	705	2,820	194	20	145	16	56	14	27	3	422	14.96%	53	12.56%		
社会学部	442	1,768	142	14	92	7	37	6	30	2	301	17.02%	29	9.63%		
法学部	893	3,572	448	24	269	17	80	4	36	1	833	23.32%	46	5.52%		
経済学部	893	3,572	544	86	460	101	283	70	116	22	1,403	39.28%	279	19.89%		
商学部	893	3,572	469	27	373	28	181	15	65	3	1,088	30.46%	73	6.71%		
政策学部	420	1,680	203	9	159	19	28	3	6	0	396	23.57%	31	7.83%		
文化情報学部	294	1,176	346	190	388	225	216	91	132	19	1,082	92.01%	525	48.52%		
理工学部	756	3,064	336	81	309	96	194	60	90	9	929	30.32%	246	26.48%		
生命医科学部	265	1,060	121	28	96	43	116	63	54	13	387	36.51%	147	37.98%		
スポーツ健康科学部	221	884	131	9	106	8	9	4	22	1	268	30.32%	22	8.21%		
心理学部	158	632	76	9	61	13	42	12	25	5	204	32.28%	39	19.12%		
グローバル・コミュニケーション学部	158	632	46	3	33	3	9	0	8	0	96	15.19%	6	6.25%		
グローバル地域文化学部	190	760	89	3	77	3	15	0	17	0	198	26.05%	6	3.03%		
合計	6,351	25,444	3,171	504	2,583	579	1,276	343	634	78	7,664	30.12%	1,504	19.62%		

※履修率は「収容定員」を分母として算出し、必要単位修得率は「履修者数合計」を分母として算出している。

応用基礎レベル (DDASH-A)

学部	入学 定員	収容 定員	(DDASH-A)										履修者 数合計	履修率	必要単位 修得者数 (合計)	必要単位 修得率
			2025		2024		2023									
			履修者数	必要単位 修得者数	履修者数	必要単位 修得者数	履修者数	必要単位 修得者数								
神学部	63	252	1	0	1	0	0	0	2	0.79%	0	0.00%				
文学部	705	2,820	4	4	6	4	4	1	14	0.50%	9	64.29%				
社会学部	442	1,768	4	1	7	2	3	0	14	0.79%	3	21.43%				
法学部	893	3,572	21	4	6	4	3	0	30	0.84%	8	26.67%				
経済学部	893	3,572	48	5	29	15	31	11	108	3.02%	31	28.70%				
商学部	893	3,572	15	5	6	3	6	0	27	0.76%	8	29.63%				
政策学部	420	1,680	12	7	6	0	1	0	19	1.13%	7	36.84%				
文化情報学部	294	1,176	120	59	84	51	44	14	248	21.09%	124	50.00%				
理工学部	756	3,064	38	15	26	13	17	4	81	2.64%	32	39.51%				
生命医科学部	265	1,060	20	10	24	15	15	5	59	5.57%	30	50.85%				
スポーツ健康科学部	221	884	3	0	2	0	1	0	6	0.68%	0	0.00%				
心理学部	158	632	6	2	7	2	6	3	19	3.01%	7	36.84%				
グローバル・コミュニケーション学部	158	632	3	0	0	0	0	0	3	0.47%	0	0.00%				
グローバル地域文化学部	190	760	2	0	1	1	0	0	3	0.39%	1	33.33%				
合計	6,351	25,444	297	112	205	110	131	38	633	2.49%	260	41.07%				

※履修率は「収容定員」を分母として算出し、必要単位修得率は「履修者数合計」を分母として算出している。

以下、2025 年度における両プログラムの履修状況について述べる。

●履修者数

- ・ リテラシーレベル (DDASH-L) では、全学部合計で 7,664 名が履修。今年度の新規履修者数は 3,171 名であり、前年度 3,157 名と比べて微増となっている。
- ・ 応用基礎レベル (DDASH-A) は 633 名が履修。今年度の新規履修者数は 297 名であり、前年度 240 名と比べて増加している。

●修了状況(必要単位修得状況)

- ・ リテラシーレベルの修了者数は 1,504 名、必要単位修得率は約 19.62%。前年度 23.04% に比べて減少している。
- ・ 応用基礎レベルの修了者数は 260 名、必要単位修得率は約 41.07%。前年度 43.62% に比べて減少している。

履修状況を見ると、リテラシーレベルは履修規模が安定して推移しており、応用基礎レベルでは新規履修者が増加するなど、発展的な学修へ進む学生の拡大が見られる。一方で、必要単位修得率はいずれのレベルにおいても前年度と比べてやや低下しており、修了まで到達する学生数のさらなる増加が課題となっている。

リテラシーレベルについては、当初は履修者 5,000 名を目標としていたが、目標を見直し 2030 年度までに履修率 50% (履修者数 12,777 名) の達成を目指している。そのため、履修者の拡大に加えて修了者数の増加に向けた取組を進めていく必要がある。

2. 学修成果について

学修成果については、プログラムの必修科目の単位修得率・成績分布を基に分析・評価する。本プログラムでは、リテラシーレベルと応用基礎レベルにおいて、以下の到達目標を設定している。

●リテラシーレベル

- ・ 文系理系を問わず、「データを読む、説明する、扱う」といった基本スキルを身に付ける。
- ・ 社会の変化、社会におけるデータ・AI の活用領域と利活用例、利活用における様々な留意事項を理解する。

●応用基礎レベル

- ・ データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力を身に付ける。
- ・ AI を活用し課題解決につながる基礎能力を修得する。
- ・ 自らの専門分野に数理・データサイエンス・AI を応用するための大局的な視点を獲得する。

上記プログラムの必修 4 科目を中心にプログラムの到達目標を達成できるように、各科目の到達目標、授業内容を構成している。採点基準については、動画の視聴状況や各科目 10 回以上に及ぶ授業終了後の理解度確認テストや課題、期末の総合評価等を組み合わせた成績評価の割合をシラバスにて明示し評価している。また、「AI 基礎」についてはこれらに加えて、グループワークによるレポート課題も課している。

このような明確な評価基準に基づいた成績評価を行っており、単位修得率はデータサイエンス概論 67.2%、データサイエンス基礎 75.2%、データエンジニアリング基礎 79.4%、AI 基礎 86.3% となった。また、可否評価科目であるデータサイエンス概論を除き、他の必修 3 科目の A、B 評価率を確認したところ、データサイエンス基礎 53.0%、データエンジニアリング基礎 42.0%、AI 基礎が 48.7% であった。

なお、2025 年度応用基礎レベルの必要単位を修得した学生の A、B 評価率を確認したところでは、データサ

イェンス基礎 75.2%、データエンジニアリング基礎 55.9%、AI 基礎が 63.6%であった。これは、応用基礎レベルの一部を学習している学生と全科目を修得した学生との間に差があることを示している。

3 科目を修得することでの学習成果があると考えられる一方で、一部科目の履修のみでプログラム完修をあきらめている学生の存在も想定されることから、当該学生に対する学習支援や履修ガイドを強化について検討していく必要となる。

3. 授業評価アンケート結果

全学的に実施している授業評価アンケートの結果についても分析し、プログラムや科目の改善・見直しを行っている。以下、必修 4 科目について、①学生の内容理解度、②他学生への推奨度、③数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義の理解、④授業のわかりやすさ、の4点に着目し、以下の授業評価アンケートの結果と、自由記述の内容を AI で要約した結果を基に確認する。

科目名	登録者数	回答者数	回答率	①学生の内容理解度			②他学生への推奨度	③学ぶ楽しさ、学ぶことの意義		④授業のわかりやすさ	
				あなたがこの授業の目標を達成できると思えますか？	あなたは学ばうとしましたか？	あなたはこれに満足していますか？	受講を勧めたいですか？	この授業を受けて、さらに AI について深く学びたいくなりましたか？	多様なものの見方や考え方を身に付けることができましたか？	この授業の各回の内容説明はわかりやすいですか？	あなたは授業に満足していますか？
データサイエンス概論	3346	924	27.6%	3.77	3.92	3.34	3.33	3.64	4.06	3.74	3.84
データサイエンス基礎	226	88	38.9%	3.61	3.82	3.30	3.20	3.80	3.92	3.62	3.44
データエンジニアリング基礎	238	86	36.1%	3.55	3.87	3.04	3.27	3.87	3.76	3.54	3.24
AI 基礎	205	59	28.8%	3.93	4.00	4.12	3.88	4.30	4.25	3.95	4.23

※ 各数値は、設問ごとに定義した 5 段階回答（例：理解度・満足度・読了度等）を 1～5 点に換算し、点数が高いほど肯定的（または到達度が高い）ことを示す平均値である。

<自由記述 共通>

良い点	改善点
① 実践的スキルの習得 - データ分析、プログラミング、AI ツールなど、実践的なスキルを習得できたという評価が多い - Excel、R、Python、SQL など実務で活用されるツールを学べた点が高く評価 ② オンデマンド授業の利便性 - 自分のペースで受講でき、理解できない箇所を繰り返し視聴できる点が好評 ③ 将来への有用性 - 卒業論文、研究、就職後の業務などへの活用可能性を感じている学生が多い - 文理問わず重要な基礎スキルとして認識されている ④ 実践的課題による理解の定着 - 課題や演習を通じて、学習内容を実際に活用する機会が確保されている	① 課題量の多さ - 講義内課題・講義外課題・AI ツール課題など複数の課題があり負担が大きい 1 回の課題に数時間を要する場合もある ② フィードバックの不足 - 課題の模範解答や解説を求める意見が多い - 自分の回答の正誤が確認できない点が課題 ③ 学習資料の配布 - スライドや講義資料を PDF 等で配布してほしいという要望が多い ④ 初学者への配慮 - 数学・統計・プログラミングの基礎説明をより丁寧にしてほしいという意見 ⑤ 運営・システム面 - 課題指示の明確化 - 試験情報の早期周知 - 学習ツールの利便性改善

<自由記述 科目別>

科目	良い点	改善点
データサイエンス概論	・ データリテラシー（データの読み解き方）の理解 ・ Excel など基本ツールの活用 ・ 文系学生にも取り組みやすい内容	・ 課題量の削減 ・ 模範解答の提供 ・ スライド資料の配布
データサイエンス基礎	・ Rによるデータ分析演習 ・ AI ツール（DAIB）による学習支援 ・ 応用的な統計分析手法の理解	・ 課題負担の軽減 ・ 講義資料の PDF 配布 ・ 数式・理論の丁寧な説明
データエンジニアリング基礎	・ Python・SQLなどのプログラミング学習 ・ データ管理・セキュリティなどエンジニアリング視点 ・ IT 分野への関心向上	・ 初学者向け説明の充実 ・ プログラミング演習の増加 ・ 試験情報の早期周知
A I 基礎	・ ChatGPT 等を例にした分かりやすい解説 ・ AI の歴史・倫理を含む体系的学習 ・ グループワークによる多角的議論	・ グループワークの人数調整 ・ 不参加者への対応 ・ 評価方法の明確化

① 学生の内容理解度

- ・ 学生の内容理解度については、「あなたは授業の到達目標を達成できると思いますか」「あなたはこの授業内容について意欲的に学ぼうとしましたか」「あなたにとってこの授業のレベルや進度は適切でしたか」の 3 項目により評価した。
- ・ その結果、「AI 基礎」は全体として良好な結果が得られた。一方で、他の 3 科目については、特に「あなたにとってこの授業のレベルや進度は適切でしたか」の設問において評価がやや低くなる傾向が見られた。
- ・ 自由記述の内容を確認すると、4 科目を通じて、データ分析や統計、AI の活用、プログラミングなど、実践的なスキルを習得できる点が高く評価されていた。特に、Excel、R、Python、SQL といった実務で活用されるツールを学べる点や、実際のデータを扱う課題を通じて知識を実践的に活用できる点について、多くの学生から肯定的な意見が見られた。また、オンデマンド形式の授業であることから、自分のペースで学習を進められ、理解が不十分な部分を繰り返し視聴できる点も評価されている。さらに、卒業論文や研究、将来の業務などへの活用可能性を感じている学生も多く、文理を問わず重要な基礎的スキルとして認識されていることが確認された。
- ・ 一方で、「授業のレベルや進度」に関する評価が低かった要因として、いくつかの課題が指摘された。特に、講義内課題・講義外課題・AI ツールを活用した課題など複数の課題が設定されていることから、学習負担が大きいと感じる学生が一定数見られた。また、課題の模範解答や解説が十分に提示されていないため、自身の理解度を確認しにくいという意見や、講義資料の配布を求める声も多く見られた。さらに、数学・統計・プログラミングなどの前提知識に関して、初学者向けの補足説明をより充実させてほしいという意見も確認された。加えて、課題指示の明確化、試験情報の早期周知、学習ツールの利便性など、授業運営面に関する改善要望も見られた。
- ・ 授業運営面の改善に加え、現在、学修支援ツールの整備を進めているが、今後はそれらをより効果的に活用できる環境を整える必要がある。具体的には、補助教材の利用範囲拡大や周知を徹底するとともに、各教材がどの授業回に対応しているのかを明示するなど、学生が学習過程の中で活用しやすい形で提供していき、初学者でも無理なく学習を継続できる環境の整備を進める。

② 他学生への推奨度

- ・ 他学生への推奨度については、「受講を検討している人がいたら勧めたいですか？」という設問により評価した。2025 年度の平均値は 3.42 となり、前年度 3.28 と比べて改善が見られた。
- ・ その結果、必修 4 科目の中では「AI 基礎」が最も高い評価となった。「AI 基礎」は必修科目の中で唯一グループワークを実施している科目であり、自由記述においても、グループでの議論を通じて理解が深まったことや、多様な視点に触れられたことを評価する意見が多く見られた。
- ・ 一方で、その他の科目については、「授業内容が難しい」「進度が速い」といった意見や、課題量の多さに関する指摘が見られ、これらが推奨度に一定程度影響している可能性がある。
- ・ こうした課題に対応するため、本プログラムでは生成 AI を活用した学習支援ツールである DAIB（詳細は本報告書 6 ページを参照）を導入し、授業内容に関する質問対応や理解の補助に活用している。DAIB はオンデマンド授業における疑問点の解消や学習支援のツールとして有効であると考えられることから、今後は利用方法の周知をさらに強化するとともに、その他支援ツール含めた各授業回に対応した活用方法を示すガイダンスを整備し、学生が学習過程においてより積極的に活用できる環境を整備していく。

③ 数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義の理解

- ・ 数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義の理解については、授業評価アンケートに独自項目として追加した「この授業を受けて、更に数理・データサイエンス・AI について深く学びたいくなりましたか？」「多様なものの見方や考え方を身に付けることができましたか？」という設問にて評価する。
- ・ 必修 4 科目のいずれの項目でも他設問に比べて高評価を得ており、実際のデータを扱うことで学びが深まり、現実の問題を解決する楽しさ、新しい技術を学ぶことの楽しさが感じられている。
- ・ 必修4科目において受講生は、数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義を十分に得られていると判断できる。

④ 授業のわかりやすさ

- ・ 授業のわかりやすさを測る質問については、「この授業の各回の内容説明はわかりやすいですか？」という設問および自由記述により評価している。
- ・ アンケート結果では、当該設問の平均値は 2024 年度 3.42 から 2025 年度 3.71 へと上昇しており、授業内容の説明のわかりやすさについて改善傾向が見られた。
- ・ また、「あなたはこの授業に満足していますか？」という設問についても、2024 年度 3.54 から 2025 年度 3.69 へと上昇しており、授業全体の満足度についても同様に改善傾向が確認された。
- ・ 自由記述においては、授業内容に関する肯定的な意見も寄せられており、授業全体として一定の評価が得られていることが確認された。
- ・ なお、本プログラムの必修 4 科目はすべて遠隔授業（オンデマンド型）で実施しており、授業動画の繰り返し視聴による理解度向上を図るとともに、課題や理解度確認テスト、グループワークによるレポート、オンラインでのリアルタイム質問受付など、アウトプットの機会を十分に確保するよう設計している。
- ・ また、授業全体として課題数や学習項目が多いとの指摘も一部見られるが、単に授業レベルを下げるのではなく、より理解しやすい授業設計を目指す観点から、難易度の高い学習項目やプログラミング学習に対する個別フォロー、自学自習環境の整備等の改善検討を引き続き継続的に行っていく。

4. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムの必修4科目「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「AI基礎」については、より多くの履修希望者、ひいては在学生全員の受講にも対応できるよう、当初から遠隔授業（オンデマンド型）による科目設計・体制を整備している。また、学生が計画的に履修できるよう、春学期・秋学期の双方で科目を開講している。現在、履修受入体制は概ね確立されているものの、履修者数および修了者数のさらなる増加が重要な課題となっている。

本プログラムの対象科目はすべて全学共通教養教育科目として全学部生に提供しており、リテラシーレベルの履修者数は前年と比べて大きく増加している。特に、これまでデータサイエンスや統計になじみの薄かった学部からの履修も増加しており、全学的な広がりが見られる。一方で、履修者の増加に伴い、授業内容についていくことが難しい学生も一定数存在することがアンケート結果から確認されており、履修者数の増加が必ずしも必要単位の修得者数の増加に直結していないことが課題となっている。

こうした課題に対応するため、学修支援ツールの充実を図っている。具体的には、生成AIを活用した学習支援ツールであるDAIB（詳細は本報告書6ページを参照）の活用を進め、授業内容に関する質問や理解の補助を行うことで、オンデマンド授業において生じやすい疑問点の解消や自学自習の促進を支援している。今後は、DAIBの利用促進や補助教材の整備を通じて、学生が学習過程の中で継続的に活用できる学習環境を整備していく。

また、基礎科目で学んだ知識を実践的に活用する機会として、学生向け実践プログラムとして短期集中型のハッカソンイベント「DDASH Hacks」（詳細は本報告書7ページを参照）を実施している。「DDASH Hacks」では、学部や学年を越えたチームによる課題解決型の活動を通じて、データサイエンスやAIの知識を実際に活用する経験を提供しており、学生の学習意欲の向上や学びの定着に寄与している。

さらに、次年度にはDDASHで学んだ内容を発展的に活用する演習科目の新設を予定している。演習科目では、実データを用いた分析やプロジェクト型の学習を通じて、知識の理解を深めるとともに、学生の学習モチベーションの向上と学習の継続を促進することを目指している。

これらの取組を通じて、履修者数の拡大とともに、学生が継続的に学習に取り組める環境の整備を進め、単位修得者およびプログラム修了者の増加を図っていく。なお、これらの施策については、年4～5回開催する同志社データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会において進捗状況を定期的に点検し、必要に応じて改善を図ることとしている。

●取組実績

① 【継続】メタバース空間でのプログラム周知

2024年度末から2025年度初めにかけて、主に新入生をターゲットとしDDASHを含めた全学横断の学びについての説明動画をメタバース空間で配信した。



② 【継続】生成AI DAIB (Doshisha AI Buddy)

授業スライドや電子教科書等を情報源とする生成AI DAIBを NTT 西日本と共同で開発し、DDASH 必修科目の「データサイエンス概論」と「データサイエンス基礎」にて授業内で提供している。「授業の要約」「演習問題作成」「キーワード解説」「自由質問への回答」「動画検索」等の機能を備え、履修生がいつでもどこでも疑問を解決できる環境を提供した。



③ 【継続】paiza ラーニング学校フリーパスの提供

本プログラム履修生を対象に、初学者向け動画プログラミング学習サービス「paiza ラーニング」有料コンテンツを無料で利用できる「paiza ラーニング 学校フリーパス」を提供している。

④ 【継続】paiza ランクチャレンジの開催

プログラミング学習応援企画として、paiza ラーニングと DDASH との限定企画として開催した。期間内にプログラミングスキルチェックをクリアした回数を競うトロフィー賞と、期間終了時の paiza ランクの高い順を競うランク賞の2種類を用意した。



⑤ 【継続】LikedIn Learning

DDASH 履修生を対象に、ビジネスやテクノロジー、クリエイティブ等の幅広い分野を学べるオンライン学習サービス LinkedIn Learning を提供。

⑥ 【継続】オープンバッジの発行、オープンバッジの活用方法の周知徹底

プログラム単位修得者の中から発行を希望する学生にオープンバッジを発行している。



⑦ 【新規】DDASH HACKS の開催

DDASH での学びの実践の場として短期集中型ハッカソンを企画。参加学生はチームを組み、データを活用した社会課題の解決をテーマに企画・開発に取り組む。期間中は技術メンターによる支援を受けながら分析や開発を進め、最終的に成果発表を行うことで、データサイエンスや AI の知識を実践的に活用する経験を得ることを目的としている。



5. プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本プログラム修了者の進路については、本学キャリアセンターと連携し把握している。2024 年度リテラシーレベルを修了し卒業した学生は 273 名、応用基礎レベルは 44 名であった。就職先の業種ではソフトウェアサービス業が一番多く 37 名(18.2%)が就職している。特に応用基礎レベル修了者においてもソフトウェアサービス業

への就職者が9名(31.0%)と最も多く、これは2024年度卒業生全体における割合(8.5%)を大きく上回る傾向である。

企業等の評価については、キャリアセンターや校友課といった外部との接点の多い部署を通じて本プログラムの取組を紹介・アピールする際に企業等からの期待・注目の声を耳にすることで少なからず伺い知ることができた。今後は、企業との懇談会にて実施するアンケート等も活用した外部評価も取入れたいと考えている。

6.産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

リテラシーレベルおよび応用基礎レベルの必修科目「データサイエンス概論」では社会におけるデータ・AIの利活用の事例を学ぶため、様々な分野の実務家をゲストスピーカーとして招いている。本プログラムについていただいた意見を一部、以下に紹介する。いただいた内容については検討を行い、本プログラムの継続的な修正・改善に活かす。

●実務家ゲストスピーカーからのご意見

・株式会社 日経リサーチ

ソリューション本部 リサーチ&データサイエンス部 光廣 正基氏

<リテラシーレベル>

DDASH-Lの必修科目は、企業におけるデータやAIの活用事例の紹介を交えながら、データの見方やその注意点などデータリテラシーを中心に学ぶ内容となっており、文系学生でも履修しやすい内容となっています。自習学習用の教材も集約して用意されており、プログラミングや他大学のeラーニング、講義に関連する電子書籍が利用できる点は魅力的だと思います。

また、学習を支援するAIアシスタント「DAIB」は、従来のTeamsチャットベースの仕組みからWeb版へと拡張され、数式や図表なども含めたより豊かな表現での解説が可能になったことで、履修生への支援環境がさらに整備された点は評価されます。

選択科目では数理・データサイエンス・AIの土台となる基礎的な知識や技術が学べ、専門領域でのデータ活用へとつながる次の学習ステップを意識した内容となっている点は評価されます。一方で、実際のビジネスシーンにおけるデータ活用がイメージできる科目も用意されるとよいと思います。生成AIの普及により、企業のあらゆる場面でデータ活用が高度化しており、データやAIの実務的な活用と基礎知識を関連付けて学べることは、履修生の学習のモチベーションにもつながり、社会人になったときにビジネスへの応用の橋渡しになるとと思います。

<応用基礎レベル>

DDASH-Aは、3つの必修科目で数理・データサイエンス・AIのスキルを身につけることを目的としており、それぞれの分野に特化した基本的な内容で構成され、リテラシーレベルの概論からさらに具体的なデータ活用の基礎が学ぶことができる内容となっています。

情報処理技術者試験と関連するデジタル・IT分野の基礎もカバーしており、ビジネスで必要とされるスキルを体系的に学べるプログラムとなっている点は魅力的だと思います。さらに、学習支援AI「DAIB」Web版の提供やLinkedInラーニングの導入により、大学の授業に加えて、学生が自らの興味や目的に応じて学習を深められる環境が整備されている点は評価できます。

また、理論を学ぶだけでなく、PBLを中心とした学びの機会についても従来から期待していましたが、実際のデータ活用や課題解決を体験できる機会として、ハッカソン「DDASH Hacks」が開催された点も評価できます。学生がチームで、予測モデルの精度を競うのではなく、アイデア創出やデータ活用に取り組むことで、講義で学んだ

知識や技術を実践の中で活かす経験につながっており、各分野の応用に活かしやすくなるのではないかと思います。

企業が抱えるビジネス課題の解決には、専門領域とデータサイエンスとを組み合わせた応用力が重要になります。専門分野でのデータ活用が学べる副専攻プログラムが用意されている点は評価されますが、理論的な内容にとどまらず、AI 活用のために必要な知識やその周辺分野の科目についても、さらに充実していくことを期待します。

以上